

令和5年度第1回大阪府精神保健福祉審議会 議事概要

■日 時：令和5年7月28日（金）10:00～12:00

■場 所：ドーンセンター 4階 大会議室1

■出席委員：委員12名（委員定数15名、定足数8名であるため有効に成立）

東委員、池田委員、大西委員、河崎委員、阪口委員、阪本委員、高橋委員、辻井委員
長尾委員、堀居委員、山本委員、米尾委員

■議事概要：

（1）会長の選出

（2）第8次大阪府医療計画（精神疾患）素案について

- 第7次医療計画の取組み状況について報告
- 国から示された指標例をもとに、現状把握の指標について報告
- 第8次医療計画（精神疾患）素案について説明
- 都道府県連携拠点医療機関の要件変更案について説明
- 精神病床に係る基準病床について説明

【委員の主な意見】

（目標・指標について）

- ・地域包括ケアシステムにおいて、どれだけ退院されているか、また医療を受けている状況で地域の中で生活を続けていけるかということは、重要な指標になり得る。そういう意味で、平均生活日数の目標をどうするのか。また、目標を実現するための施策とはどのようなかというのは、論点としては重要。
- ・平均生活日数は、1年以内に退院した人の日数なので、長期入院者の評価にはならない。
- ・治療抵抗性統合失調症治療薬、精神科電気痙攣療法は、全国的にみても少ない。今回の指標の目標では、この2つを充実させようというようになっているが、そもそも治療にこの2つが必要なケースがどれくらいあるのか、検証もできればいい。
- ・精神医療の指標として、量的指標になっているが、医療の質を考えた時に、病院がどのような取組をしているかという指標を研究する必要がある。
- ・地域移行をすすめていくにあたり、医療と福祉の連携が大切。

（都道府県連携拠点医療機関の要件について）

- ・拠点の要件がその疾患を診るために必ず必要なことではないのに、要件を満たすことが医療機関としての評価と見えてしまう。
- ・都道府県連携拠点医療機関の要件を厳しくすると、拠点数が減るのではないか。

(新興感染症・まん延時の体制について)

- ・精神科でも感染症認定看護師など、必要な人材を育てることが必要。奨学金制度などを検討できないか。
- ・コロナの感染時に精神科から転院できないことがあった。平時から病病連携ができていたのか、地域において精神科と他科連携についてしっかり位置づけてほしい。

(その他)

- ・入院患者の高齢化が非常に進んでいる。地域移行でどのようなところに退院後行かれているのかをデータを示してほしい。
- ・地域移行に関して、家族の高齢化も課題になっている。
- ・精神科の高齢者の課題は、認知症だけではない。認知症以外の老年期精神疾患についても考えて欲しい。
- ・地域移行について、以前のような保健所・病院や地域の支援者と一緒になって戦略的な形での検討ができていない。
- ・クロザピンについて、通院先が遠いと災害時など歩いて行くことができない。もっと身近にあるといい。
- ・精神疾患の説明について、「長期化、慢性化」という表現について、書き方を工夫した方がよい。

(3)「大阪府アルコール健康障がい対策推進部会」の設置について

- 「大阪府アルコール健康障がい対策推進部会」の設置について資料9-1、2に基づき説明。

【委員意見】

- ・異議なし

(審議結果)

- ・大阪府アルコール健康障がい対策推進部会の設置及び要綱案の了承